記録用

1962 ~ 63

冬山合宿報告書

（白馬隊・常念隊）

信州大学山岳会

信大伊那松本山岳部

山岳部冬山合宿に参加して

山岳部顧問　宮村　健

今まで山岳部の人と個人的な山行は何度かやった事もあったが、山岳部顧問として、いわゆる部としての合宿に参加したことは今度が初めてで、一週間を若い人達と行動を共にできたことは、色々の意味で大変有意義であった。

今回の山行を通じて感想を二三述べると、

第一に、これは当り前のことかも知れないが、部員一同がリーダーの指揮に良く従って、統一ある行動をとった事で、登山と云うスポーツは大げさに云えば、一命をかけたスポーツであるので、勝手な行動は許されず、リーダーの指揮のもとに全員一致して、目的に向って進むことは勿論であるが、それ丈にリーダーの責任は極めて重大であるから、リーダーとなるものはその点を十分認識して、事故の絶対起らないよう、今後共十分自重してもらいたい。

第二に、登山は他のスポーツのように競技をして勝ち負けを争うものでなく、自然が相手であり、その自然を良き友として自らの精神および肉体を鍛え、しかも美しい大自然に接することによって、情操を高める一石三鳥のスポーツである。山岳部を志した人達は、その点で誠に幸いだと思う。しかし、相当過激な運動であるので、普段から心掛けて、いわゆるトレーニングをしておく必要があることは云うまでもない。トレーニングの為のトレーニングも勿論必要と思うが、毎日の生活にも是非心掛けて、体力の増強に努めてほしいものである。

第三に、本学は地理的条件からみて、山岳部の活動に最も適した位置におかれている。大学の特色を生かす点から云っても、信州大学山岳部の良い伝統をつくる為にも、皆の力で山岳部の活動を今後益々活発にやって頂きたい。

参加者（[illegible]）

C.L 寺田雅治（林学3年） 伊那市境区 伊那部 三郎
京都市北区上賀茂藤ノ木2-3

S.L 川崎誠（林学3年） ~~[illegible]~~ / 三雄

後藤紀彦（文学4年） 松本市西小松（上条方） 紀
愛知県中島郡平和町六輪 Tel(2600)(津島)

葛西正美（林学3年） 伊那市境区 伊那部 正康
東京都中野区野方 2-1275,5128 Tel(385)

平郁彦（農畜1） 松本市里山辺北小松（浅江和雄方）信子
青森市 柴田町 44 Tel(2)5798

板谷真人（林学2） 伊那市伊那5735の3（小松明纲方）慶之助
京都市伏見区東堺町 550

幸田反三（工電1） 恩誠寮 106 三郎
西宮市東鳴尾町 2-27

新谷剛（医進1） 恩誠寮 108 Tel(75)2618
名古屋市千種区日進通 2-20

松井康彦（農畜1） 恩誠寮 S.3 康一
尼崎市 水堂 旭茂 40

小川勝（人文1） 松本市元町上区 275-3（萩原方）栄
名古屋市西区南鷹匠町 1-10 Tel(53)1454

山形文武（工科1） 松本市埋橋 1618（米山方）八郎
北葛城郡中郷町上桜井 749

三谷浦次（文自1） 恩誠寮 M. 771-5341
大阪市東成区西今里 3-8 Tel(981)

駒井浩（工土1） 松本市筑摩 2921（塩新一方）定
神戸市須磨区天神町 3-86 Tel(7)4674

神野国秋（畜1） 吹田市大字垂水 168-39 Tel(381)3922

中郁康文（人文1） 松本市三才町（高砂方）
滋賀県甲賀郡甲南町 梁川 1631 Tel(甲南)314

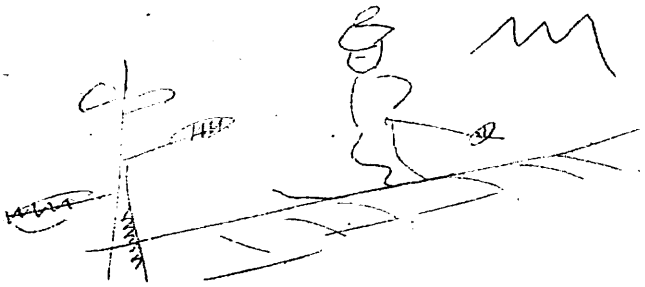
宮崎敏孝（農林1） 松本市里山辺 北小松（花崎一雄方）
大阪市東淀川区宮原町 2の83

西阪 孚（農商4）松本市里山辺北松（花崎一雄）
大阪市阿部野区阪南町西5の24
中村 健（農教授）伊那市室町信大官舎

"峻しい山を攀じ登るのはわが歓びい" ニーチェ

登攀というスポーツの父はさすらいへの衝動であり，その母は危険に伴う歓びなのです。生粋の近代的な岩場の曲芸師である限り，山の狂信者と見做されてもさしつかえないと思います。彼らを大勢の登山家から区別する点は、ただ彼らの行動だけではないのです。
その行動は人人人の考え方によって、マニヤだとか狂想だとか意楽だとか、あるいはまた情熱だとか恍惚と呼ばれるのです。----
でもなんと呼ばれようとこれはそうたいして重大なことでもありません。この重大なのは、いろいろの宗派でみられるように、信念なのです。決定的な意味をもつのは、狂信的な意志を生み出す、熱烈な信念なのです。

—ヘニリー・ハーク—



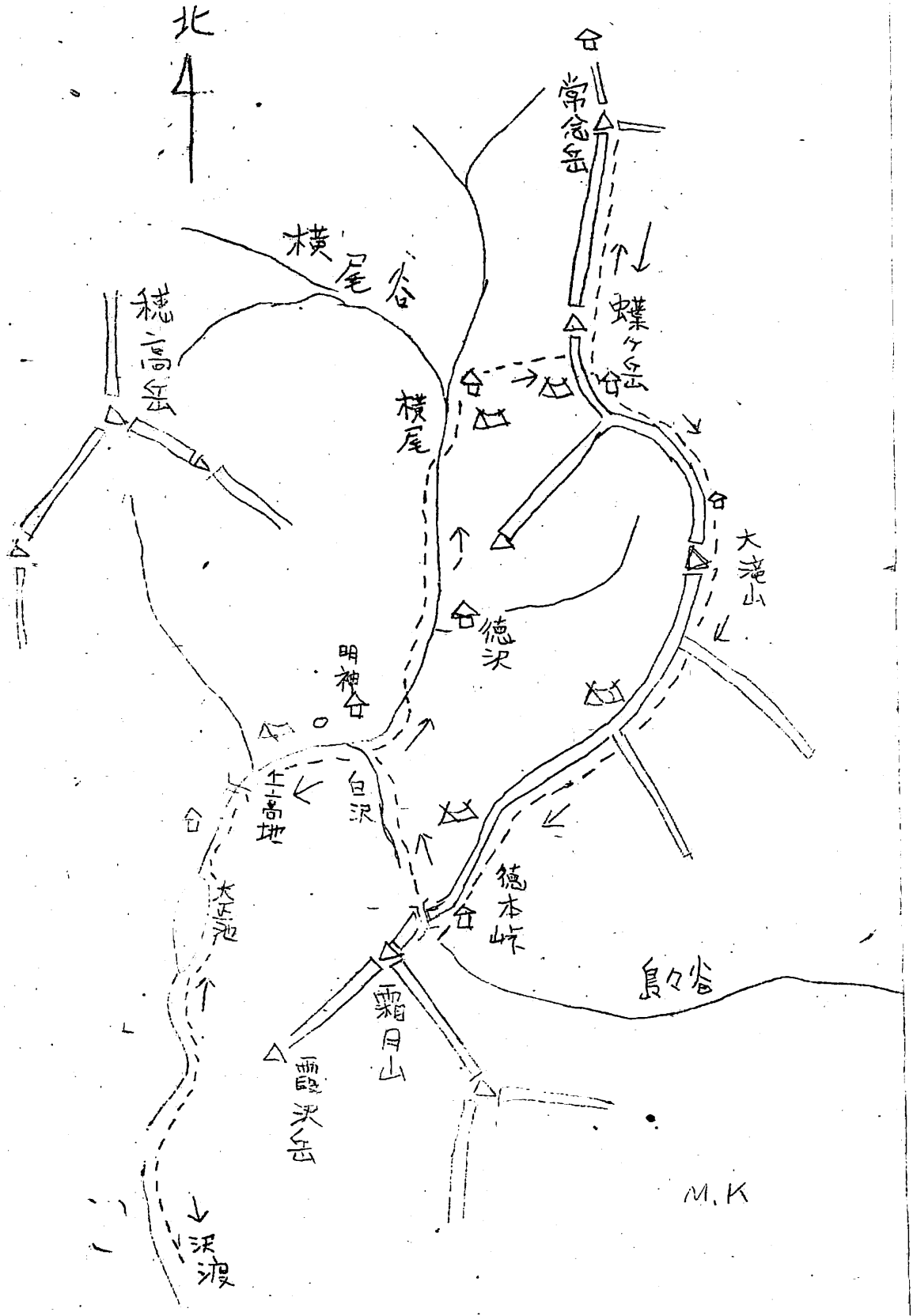
合宿を終って　　―寺田雅治―

合宿が終るといつも感じる疲れと、たるみが心地よく感ぜられる。
まあ、何事もなく終ったという安心感が、合宿全体をスムースに完遂しえたという錯覚に変えてしまうのをしる反省会、自己反省として分析すると、手ぬかりの多いのに驚く始末である。そしてつぶやかれる反省
"ローソクが途中で無くなってしまった"
"ハーケン、カラビナを忘れた"(出発直後のとき)
本当に大変なことだ。合宿準備で本当に良く頑張った一年生諸君の努力をもう一歩確実なものに持っていけなかった上級生としての、リーダーとしての責任が重くのしかかって来る。
いつまでも連絡の不徹底という難問題を感じ、今だに克服出来ない現状である。
総会のたびに指摘される、下での準備への意欲の欠如、仕事の分担を独走でもって行った今合宿の一年生諸君、これも必ずや、意欲の欠如であろう、山への準備は事務的な仕事では割りかれない。常に工夫、改良が大切だ、まして経験により得られる、ぬかりない準備は、上級生への質問、相談によりなされる。この一事を欠いた事は大きな失策だったであろう、もちろんこのことは先にも指摘したように、すべて上級生への叱責としてかえってはくるのだが。

合宿は幸い好天のうちに前半を終え常念アタックも無風快晴の好機にめぐまれた。しかし楽しかったアタックが、冬山の厳しさを忘れさせるものにならないよう願わずにはいられない。合宿後の一年生の無届仮人山行に近い山行が行われたのが冬山合宿の成果の受け取り方のあやまりでないことであれば良いが
冬期高所露営については個人差は断定出来ないが大体においてかなり向上を示した事は喜しいことである
今こうして合宿を振り返ると限りない反省が浮んでくるがこれらの反省を春山に向け意欲ある抜かりない準備にもっていきたいものだ。終

"いったいなんだってこんなに苦労しなきゃならないんだ？これはみななんのためなんだ？いったいおれは山でなにを探し出すつもりなんだろう？"
ぼくは切り終えたステップとまだ切り終えていないステップとの間にいましたが、唆嗟に応えが口をついて出ました。"なにを探すって？そいつはむずかしいな！軍人だったら、さしずめそれを冒険だというだろがね—信仰篤いひとなら神の思寵だというかもしれない—きみはきみでそれを何んと呼ぼうと勝手さ……"

—Henry Hoole—


北
常念岳
蝶ヶ岳
横尾谷
穂高岳
横尾
大滝山
徳沢
明神
上高地
白沢
大正池
徳本峠
島々谷
霜月山
西穂沢岳
沢渡
M.K

行動記録　—川崎—

12/23

沢渡出発	9:20	◎
山吹トンネル	10:00～10:05	◎
清水トン	10:50～11:00	◎
坂巻トン	11:25～11:45	◎
中の湯	12:20～12:30	◎
休	13:00～13:15	⊗
休	14:40～14:45	⊗
帝国ホテル	15:10～15:25	⊗
上高地バス停	15:35	⊗

新人の共同装備は約26kg。
不調の者もいたが全体的には割合に快調。長い釜トンをぬけると雪国だった。一気に上高地まで行き、バス停にテントを張る。路上は10～15cmの雪の下に氷が5cmほどついていた。

12/24　雪又は小雪

起床	4:30
めし	5:20
撤収	6:30～7:15
出発	7:20
休	7:40～7:50
休(明神手前)	8:35～8:45
休(パンくう)	9:25～9:45
徳沢川原	10:30～10:40
奥又出合	11:15～11:40
横尾	12:25
設営	12:45～13:~~45~~35

明るくなったのが7時頃だった。
皆快調なペース。徳沢あたりから川原に出る。奥又の出合でお墓まいり。夏道は氷の上に雪がついており何人かころぶ。
川原はひざ位までの雪だが所により砂や石も露出している。
横尾は雪が少く(10cm位)ベタベタだった。

12/25（1日中快晴）無の微風

起床	4:00	
朝食	5:05	
出発	6:10	
休	6:50 ～ 7:0	
休	7:35 ～ 7:45	
休	8:25 ～ 8:35	
休	9:20 ～ 9:30	
休（パンくう）	10:15 ～ 10:35	
森林限界	11:55 ～ 12:20	
横尾	13:30	

昨日とは打って変った快晴。高度をかせぐにつれて穂高、槍が姿を現わす。蝶ケ岳稜線下の森林限界に雪洞を作り荷物をデポする。
夕方「東工大生が北穂沢でナダレにやられた」と京大生が上高地へ連絡にゆく。発生時刻は12:30頃だとのこと。
軽傷者3人が下りてきて上高地へ下っていった。

我々のクッキーを食って高く評していた。

12/26

起床	4:55	
めし	5:50	
出発	6:55	
休	7:35 ～ 7:45	
休	8:30 ～ 8:40	
休（パン）	9:15 ～ 9:35	
デポ地点	10:15	
設営	10:35 ～ 11:55	
夕食	16:45	

朝の5時の温度が何と0°C。異常な暖かさである。昨日のシュプールをたどって快調に登る。樹林を忘れたためブロック切り出しに今向をくう。暇があったのでスキーをしたりイグルーを作ってみたりした。イグルーは未完成に終る。

夕焼け美しく、星空更に美しかった。
ざっくTモテントが3つ並ぶとちょっとした砦のような感じだ。うろうろしている人間が人間だけに山賊の砦だろう。

12/27 快晴

起床 4.00
朝食 4.50
出発 6.30
休 I 7.00－7.10
休 II 8.50－9.00
休 III 10.00－10.20
(エッセン)
常念岳 10.40－11.10
休 IV 12.15－12.25
休 V 13.00－13.20
(エッセン)
テント 13.50

満天の星空。準備を終へ出発を待つ6時30分出発する。松本の上空はすばらしい雲海。穂高や槍もカラリと晴れあがりきれいにみえる。常念への登路は雪が多くなり場が出ていた。途中の森林帯は雪が多く膝までのラッセルをする箇所があった。

川崎建設のイグルー完成す。我部初めてのイグルーなりや？

~~中村~~こう毎日晴天がつづくと、最後のたたりがおそろしくなる。

12/28 快晴

起床 4.00
朝食 5.00
出発 6.40
蝶小屋 7.30－7.40
休(ワカン付) 8.20－8.30
休(エッセン) 9.50－10.10
休 11.30－11.40
大滝乗越 12.15
大滝山 12.40
休 14.20－14.30
テント設営 16.00
設営時間 約1時間

蝶の稜線をアイゼンをつけて歩いたが雪が少く歩きにくい。蝶の小屋までも行かぬうちに不調者が1名でたが他はふだんの通り歩いた。小屋をすぎて次の休止でわかんをつける。後藤さんのスキーがうらやましい。

大滝山の頂上はまるで春のような暖かさで、黒土が顔を出しており、冬山とは思えない程である。
大滝をすぎてからの森林帯は、はじめ良のうち表標識がわかりにくかったが、ウサギの足あとをたどって進む。
雑樹林帯の手前にキャンプする。明日は疲労回復のため沈デンに決定。新人は歓声をあげて喜んだ。

12/29 晴 沈澱

起床

今合宿初めての沈澱で、写真をとる者、1日中ねてるやつ、各々のんびりする。ローソクの不足がはげしく先が思いやられる。

12月30日　小雪 後、べた雪。風はふるい。又は曇風

起床	4:0
朝食	4:45
撤収	5:10～
出発	6:15
休	7:05～7:15
休	8:10～8:20
休（パンくう）	8:55～9:10
休（ヤッケ着用）	9:55～10:10
休	11:0～11:10
休	12:35～
（大港橋見台 通過 12時頃）	
~~休~~休（パン）	13:00～13:15
設営	13:30～14:20
夕食用意	5:50～6:45
夕食	6:50

天候もだいぶくづれてきた。
雪の状態が悪く歩きにくいべタ雪だ。
スキーの後藤さんが先行して標識を見つけて行き、他はそのシュプールをたどる。後藤さんの誕生祝。

ラッセル技術に個人差が大きいようだ。
べた雪で全身ぬれたが風のないのがせめてもの救いだ。
ろうそくは全体であと1本のみ。塩も不足

12月31日　雪、濡物もよく乾かぬため沈澱

1963年1月1日　くもり又は雪

起床	4:0
朝食	
出発	7:50
休	8:40～8:50
徳本峠	10:30？
明神	12:15～12:30
上高地（小梨）	13:35
帝国ホテル	14:0～14:10
釜トンネル口	15:25
中の湯	16:05

徳本峠まではスイスイと行ってしまった。
今後の行動について重役会議の結果下山することにした。
中の湯まで一気に下り、夜は温泉に入る。
元日兼下山兼山形君誕生日のコンパ。
腹いっぱい食って幸福。

今年も毎日このくらい腹いっぱいくえたらどんなに嬉しいだろう。

~~1月2日~~　~~くもり~~

~~起床~~

1月2日　くもり

起床	6:00
朝食	7:00
出発	8:30
休	9:20〜9:30
沢渡	10:15

朝もゆっくりと起きる。
今日はいよいよ下山日だが、下に下りても、おまんまの保障がない。
食料のある限り山にいたいが、[illegible]
沢渡では5分の差で臨時バスを逃してしまったが後の祭。
部室及び思誠寮娯楽室に装備を片づけて解散。御苦労さんでした。終

合宿に同行して　　葛西正美

自分にとっては、恐らく山岳部最後の冬山合宿（そうでなければ困るが）を短期間にせよ皆と行けたことは非常にうれしかった。今合宿に於て感じた事を書きます。

装備について

1. 出発の際ミッ道具の袋を忘れた事
2. ミードに破損個所があったし、木綿糸で縫い合わせた程度の修理はしてあったが風の強い稜線では使用出来ない。
3. ロープが細く量も不足。
4. ワカンのスペアを用意すべきである。
5. 雪取りブラシの柄は弱く折れた。
6. ラジュースの点検を合宿前に行なわなかったためかスパナの合わぬものがあった。
7. ノコぎりの紛失
8. テントの張り綱はうめてから上で調節出来るようにしておく事。
9. 計画書中の個人装備はKgとしか書いていないが新人に対して冬山個人装備表を配布した方が良い。
10. 上級部員の中でも純毛の下着を着用していない人がいる。あるいは予備の中に持っていたかもしれないが新人に対して純毛の下着上下の着用を規定していながら着用を怠っていたとするならば山に対して無智なのかすくみているのか、いずれかと思う。純毛の下着の必要性を痛感しているのは我々上級部員に外ならない筈である
11. ワカン、アイゼンの七毛etc　こまかいものでも不備を新人各自は痛感した筈で出行前にプリントに用意すべき事は書いてあったのだから、今後は各自の出行前にはずクを出すよう望む。

食糧について。

1. お茶は出行中にほしいと思った。
2. 去年の合宿で反省された事であるが、ジュースetcのような暖い飲物がほしかった。

3. 味噌の量は今合宿一人一回17gであったが従来は3g
となっている。
メマカロニを主食にしたのは良い。調理法をもっと工夫
していきたい。
5. 行動食のクッキーはうまかった又豆納豆、羊かんもうまか
6. レーションは良いがただリーセジをかってバラバラに
れたのは腐敗の恐れがある。

行動について。

1. 行動中CLが動きすぎる。CLの指令でSLないしは
2年部員が積極的に動くべきと思う。
2. 休憩を終って出発するときトップは全員が隊列を組
のをまって最初はゆっくりしたペースで歩いた方が
3. 今合宿で非常に良いと思ったのはCLがSLないし
年部員を集めて毎日行動終了後meetingをしたのは
CLの考えを二年部員に伝達した事により行動がス
ースになり良かった。

リーダーシップについて。

1. 合宿準備中伊那に於て上級部員の打ち合せ会の際S
無断で欠席した事は非常に遺憾であった。SLは合宿計
の主力となって活動しなければならない。今後この
うな事のないように望みたい。
2. CLが細い事迄感情的に新人言うことはない。気を
の他、これに類する事はSLや二年部員がやるべきで
は全員の士気を高める様配慮した方が良い。
3. 新人が係の一員となって仕事をするのは良いが責任
に2年部員がいて監督しSLが指揮し合宿前CLが計
に目を通しておいたならば多くの準備上のバスは防
と思う、従来がそうであったように計画準備に際し
上から下へ一本の太線が通っていなければならない
計画書を0日に送って意見を聞くべきではないだろ
か。

ジュニアシップについて。

1. 多くの新人諸君は恐らく始めての冬山でつらいことも多くあったろうし行動に不満を持った人もいたと思うが新人諸君の不満に思った事は、上級部員もやはり新人の時経験がある事なのだ、私は新人にとって一番大切なことは上級部員の言葉に従うことだと思うなんといっても上級部員は経験が深いのだし常々最良の状態を願っているのだから。新人諸君も山行を積ねてやがて、上級部員になれば新人の時問題に思った事は、おのずから解決がつくと思う。又疑問点のあるときは、山行後、遠慮なく上級部員を訪ねて話し合った方が良い。上級部員が文句を云うのは。皆な好意を持っているのである。

ある人は冬山が意外に楽であったかもしれない，ザイル，ハーケンなを使用しての登攀のような華かさが無ったけれども。なんといっても冬山の基礎は重荷をしょってラッセルし雪の中で生活する事であるから成果は充分あったと思う。この経験の上に厳しい態度で精進して欲しいと思う。

— 終 —

「冬山」　　松井康彦

自分は今回の冬山が、初めての冬山登山経験であり春夏秋と合宿を経験した内で、より多くの物を得る事が出来たようであります、なにしろ冬の登山は一年の内で一番自然環境が厳しくその懐に入りこんで集団の生活を営んでいくという点で、他の合宿より相等難かしいのであろう。

今回の合宿に於いては積雪が少ないという事であったが、今まで雪に接するという事も少なかったせいか純白の雪には大きな憧れを持っていたが膝までのワッパを付けて歩くことは想像以上のファイトと努力がいるのである。

今回につくづく考えさせられた事は、何んと集団で

生活することは、むずかしいかという事である。
テント生活には、個人主義は適用しない、自己の規律なくして山での生活などなり立って行かない。又利己的な考えを排するという事はなるほど大切なテントワークである。自分を制する事それがテントワークかも知れない。登れどいうスポース以外にこれほど集団生活を学ばせてくれるものは少ないであろう。自分のような根性の小さな人間にとっては、この、人との協調に対する苦しさが登山のうちの大きな問題である、いや自分だけがこの様な問題を持っているのだろうか。人間の当然持っている利己性故にこの様な問題が出るのであるならこれは全山部員各自の問題であろう。しかし一つの集団で普通の目標に向っていく為には、当然克服されなければならない。自分の生活している思誠寮に於ても、これを小規模にした問題が出てくる山のうえでのテント生活、それは下界に於ける社会生活につながる問題である。
いつも山に於いて一つの人間として行動に責任を持ちながら生活する時、思うのは、母の愛にいだかれながら無責任な生活のおくれる家の事である。故に自分としては試練としての厳しい集団生活にもまれるべく積極的に山をやっていこうと思っている次第である。

—終—

冬山合宿

—新谷剛—

あの日、何故バテたのか。何にしろあの日は体に力が入らなかった。それまでの夕日間、決して皆より以上に元気だったとはえわないが、それでも余裕があった。
オ一日目
松本電鉄はあまり好感持てない。いつものことながら。
オ一荷物代が高い、サービスがなっていない、沢渡に着くと、いよいよそう感じた。
上高地バス停まで意外と楽だった。
オ二日目
凍った道というのはいやなものだ。ころぶまいと思っ

てもころぶ、決して気なんかぬかぬのに、「傘をぬくな」と、どなり声がかかる横尾への道は長い。

第三日目

曹難はしたくない。蝶へデポ。セッセルに、疲れると。去年より雪が少ない旨とどなられる。とにかく頂上への道は遠かった。

第四日目

やはり前日のステップの跡があり、前夜降った、とて、ぐっと楽だった。団体による力の結集の強さを、しみじみ感じた。

第五日目

北アルプスの展望がすばらしい。誰だって冬山に生命力を感じるだろう。写真よりきれいだ。

常念往復、アイゼン着ける。岩にはそっとのせる、しまった雪には、カシカシとくいこむ何んとも云えない。

天候にめぐまれ、風もなし、常念岳ではめずらしいとの事。帰へりはオーバーワーク、完全に。テントについたら、何か、ふぬけた感じだった。

第六日目

本日はバテた、何故だろう。肉体的か精神的か、いずれにせよバテた。皆に迷惑をかけた。お許しあれ。力の世界だ、何も云うまい。

第七日目

沈殿、おのれのいたらなさをつくづく感じた。

第八日目

黙って歩いた。ベタ雪で衣類がしめった。これでも去年より雪が少ないとのこと、さぞ去年は大変であったろう。

第九日目

沈殿、衣類をかわかした。俺はズクがない、もっとズクを出さねばならぬ。

第十日目

一所懸命に歩いた、黙って。徳本から明神まではきつかった。バカみたいに。

第十一日目

前日の露天風呂は最高だった。あまり早く帰へりたいと

は思わなかった。

とにかくバテたのは、口惜しかった。根性をつけねばならぬ。そう感じた。

—終—

合計報告

○ 収入

3000×16＋1600＋1700 ＝51,300
(藤西)(中村教授)

秋山合宿の残金のうち　1,000

雑　入　80

総収入　52,380

○ 支出

食糧関係	38,998
装備 〃	4,035
医療 〃	1,790
梱包 〃	2,030
交通 〃	7,550
総支出	54,403

装備報告

装備項目	予定数	持参数 ※（ ）内は紛失数	備考
テント 6～7人用ミード（本部） 合上（食堂） 農学部カマボコ（6人用）	3	3	ポール，内張，張綱 etc. 充分に点検 青ミードのポールさし込み修理を要す。 古ミードの支柱穴でっかくなり手入れ必要
スコップ	2	2	
ノコギリ	1	1 (-1)	12.26日蝶の肩手で上げられていない事 判明
ナタ	1	3	個人のものを借用（寺田・川崎・葛西3氏より）
ツェルト	1	1	古シートを持参した。
ザイル	1	2	
ハンマー	1	1	
ハーケン	3	5 (-5)	12月27日 不明
カラビナ	3	5 (-5)	合上
ラゲウス	9	9	足26本が25本（1本紛失）。
ナベ	6	6	ノズルの口金のないまゝ持参したもの一発アリ。
コッヘル（やかん）	3	3	スプナの合わないもの若干
包丁	2	3 (-1)	
食器	40	38	
ハシ	40	40 (-6)	12月28日 不明が判明
ナベブタ	6	6	
お玉	3	3 (-1)	沈澱日の後になくなることが多い。
飯ヘラ	3	3 (-2)	
ポリタン（飲用）	3～4	4	新谷，中邨，神野，幸田 各氏のもの
石油	40ℓ	40ℓ	残り 8ℓ
石油用ポリタン	3	4	
石油缶	2	4 (-2)	
メタ	6（250g×）	相当量（小缶）	
マッチ	3箱（30ヶ）	小箱40個	残品 21個
サイフォン	2	2	
ラジオ	2or3	3	個人のもの（三谷，小川，神野 3氏より）
寒暖計	2	2	駒井，大川両氏のもの
目覚時計	3	2	宮崎，西阪両氏のもの

（つゞく）

電池予備	10	10	
針金	10m	10m	
ブラックテープ	2～3	1	
ワセリン	1缶	1	
標識布		若干	倉庫にあった去年のもの
ラジウス修理用ペンチ	1	1	
ラジウススペアノズル	1	1	
〃 マンドリン	5	6	
細引	3		
ロープ	21×100尋	30本	細いものを購入した為全然たらない
天気図	30枚	30枚	
ホーキ	3	3	
ブラシ	3		
マジックインキ	2～3	3	
背負子	1	1	
他予備の綱等			

「さすらい人の自由の足は。
ひとしく呪いと祝福をうけている
いつまでもいつまでも駆り立てられ、
一刻も休むときがない。
清麗で美しい乙女も
このさすらい人をつなぎとめることはない
星くず左顎にいただいて
いつまでも、いつまでも先を急ぐ」

―ハスペル・デ・ガリエンネー

食料報告　　西阪

	朝	昼	夕
12月23日	ラーメン	パン, リーセイジ, 紅茶	ラーメン, フレールー
24	ラーメン	パン, 羊カン, 玉ネ	マカロニ
25	~~[illegible]~~	パン　甘納豆	ラーメン
26	ラーメン	パン, リーセイジ	マカロニ
27	ラーメン	パン	ラーメン
28	ラーメン	パン	マカロニ
29	ラーメン	パン(2/3)	米, サンマ
30	ラーメン	パン	ラーメン
〃	ラーメン	パン	米　鯨テキ
1月1日	粘蕎	パン	米, ゴッタ煮
2	残りのエッセン	パン	

反省

1. レーション

利点：出来上る時間の短縮。
労働力の軽減。
テント内の場所をとらない。
パッキングの中からの抽出が便利。

欠点：準備に時間と労力がかなり掛る。
梱包費がかかりすぎる
融通性が少ない。
料理法を全員に徹底出来ずに終った。

2. 乾燥

α米：100℃/20℃で乾燥する。実験上では出来たが、今の乾燥器では、時間的、出来具合の点で実用不可能である

野菜：玉ネギ, にんじん, 白菜, 大根を乾燥したが、その中で、にんじんが非常によかった。

3. ダシ

カレルー：カレ(80g), スキム(25g), メリケンコ(400g) ラード(200g)
カレー粉が他のものに比べて多すぎた。
途中で欠点が出ても変更が出来ないのがレーションの弱味である。カレ料理が多すぎ, あきがきた。

ダシ粉：1斗につき80円のダシ粉1袋
塩を加えず1人につき醤油70CCにしたが少し不足であった。
今回の塩の不足は味付でミスがあったためである。
4 モチ：重量の点で難点があるが、たまには必要である。
5斗で36人分
但数が明確にしていたことは良かった。
5 マカロニ：1人235g、量は充分であった。
料理法が人によって色々で、又不慣のため、味の良くないものが出来た。この研究が必要。
5 カロリー：カロリー計算をやるべきであった。
6 ビタミン剤：医療係で毎日出してくれたのでビタミンの心配はなかった。
7 テルモス：テルモスがあれば良いと思った。

—終—

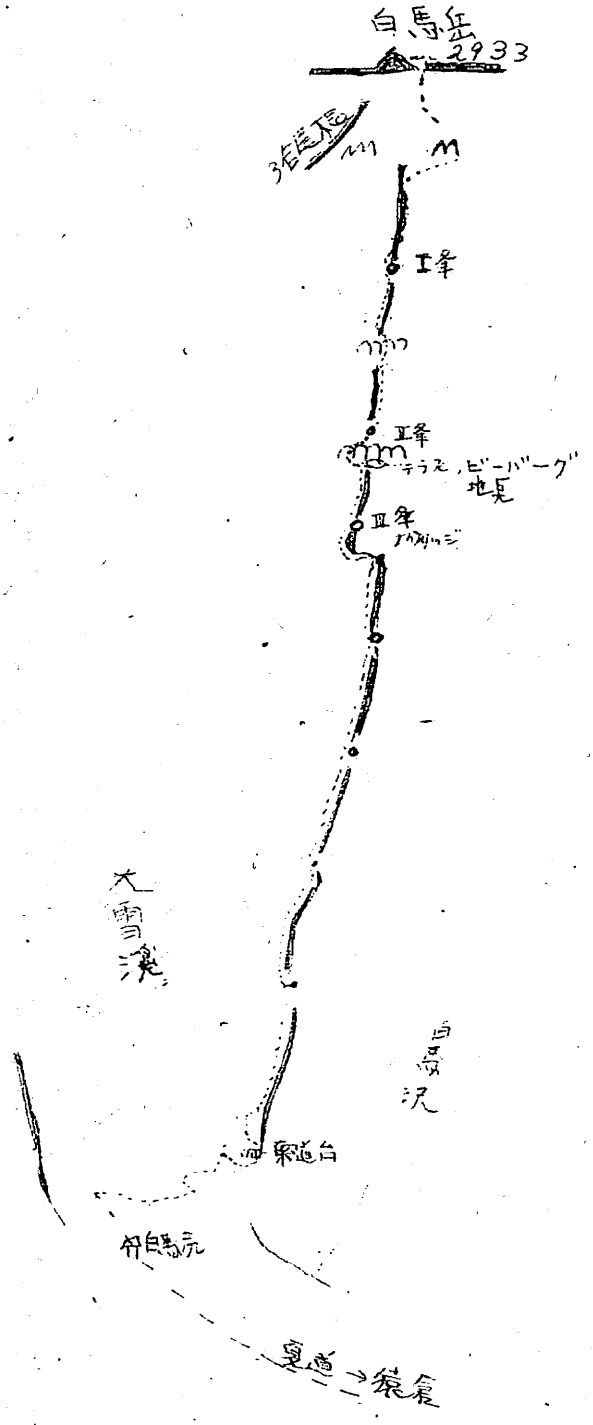
梱包係報告　小川勝，大川義博

1. 梱包はnatoorとした。包丁のいらない料理をキャッチフレーズに出発したのだが，準備に手間がかかりすぎるのは欠点であるが、だいたい成功であったと思う。
2. 竹かごについて
1 価格が高かすぎた。1かご680円
2 中味がきっちりとこんっていないと，きれいにパッキング出来ない欠点がある。
粉ボールとくらべてみると，じょうぶである点が有
3 梱包はかる。
グも終って，計画では、入山前日迄に完成しパッキン伊那との連絡をゆるんだりとするはずであったが、は大変残念であったが怠慢で前夜までかかったの
4 梱包費がかなり過ぎた
上つたと思う。　　ナイロンぶくろもう少し安く

—終—

参加者（[illegible]）

CL	西郡光昭	医進2	松本市里山辺北小松（花崎方）
SL	出島五郎	農林3	宮城県遠田郡田尻町富岡 伊那市郊外　信大中原寮 金沢市小坂町東六
食糧	小川永行	農林3	伊那市中央区中央通（竹松方） 浦和市原山新田143
〃〃	真野孝一	〃畜2	伊那市水神町（北原方） 岡山県赤磐郡山陽町津崎
装備	池田直弥	〃畜2	伊那市境区伊那部1308 酒田市下中町21
〃〃	松尾武久	文社2	松本市白板町宮本区（折井方） 大津市石山鳥居川浜町104
梱包	奥島啓志	農林3	伊那市西町伊那部5585（三沢方） 愛媛県新居浜市山田町鉱81
気象	新　幸芙	〃林3	信大中原寮 東京都葛飾区下千葉町123
〃〃	柴田武明	〃畜2	伊那市中央区中央通（竹松方） 長野市居町1738
記録	田中正治	〃林2	上伊那郡西箕輪村大萱（小林方） 広島市三条本町2丁目1434
〃〃	斉田担男	医3	松本市安原町（斉藤豆腐店方） 京都市伏見区柿木浜町430
O.B.	金松直也		信大　精神科


白馬岳
2933
猿倉
I峯
II峯
テラス、ビーバーグ地点
III峯
大雪渓
白馬沢
東道台
白馬元
東道→猿倉

記録

12月23日（曇りのち小雪）

4時15分起床——5時30分松本駅着——5時48分松本駅発——四谷着8時25分——二股着（四谷よりバス）8時45分——9時5分出——1本9時35分～9時45分——1本（パン食う）10時20分～10時50分——1本11時20分～11時30分——猿倉荘着11時57分：テント地さがす——出12時40分——テント地着13時……鑓温泉，白馬尻との分岐点（積雪1m）——テント張り終る2時15分——エッセン6時10分——シュラフに入る7時30分。

12月24日（雪）新雪15cm

4時起床——4時30（最高+17°，最低-3°）——5時30分エッセン6時池塘に決定——11時55分エッセン——12時10分エッセン18時20分，クリスマスパーティ開く クイスキーウヒ゛ン1本で——20時シュラフに入る。

12月25日 晴 テントキーパー 柴田，真野

杓子尾根偵察。

4時起床——5時エッセン——6時10テント発——猿倉台地7時～7時10分，いったん長走沢に下って杓子尾根にとつつく——10時57分～11時23分杓子尾根の稜線に出る——13時ジャンクションピーク下200m下のピークでエッセン，ヒザ上までのラッセルに苦しまされ，ここから引き返す。

13時40分引き返す——15時杓子尾根末端夏道へ200mの所15時08分出——15時12分夏道に出る——15時32分BC着——16時30分エッセン——18時30分シュラフに入る

12月26日 雪後アラシのち晴

池塘

7時5分エッセン——12時45分昼食——15時55分夕食——シュラフに入る。

12月27日 テントキーパー田中，新，

アタック，杓子サポート

0時50分エッセン——2時15分アタック，サポート両隊BC発——7時0分サポート隊大雪渓つめる。——途中で引返し杓子尾根に取りつく雪の状態が悪く雪崩の危険があったため13時昨日の地点に着くツェルトを張りアタック隊の様子を見る。——15時引返す——16時25分サポート隊BC着——19時アタック隊と交信，アタック隊はビーバーグ，——23時オク回アタック隊と交信。行動中は2時間おきに交信，19時からアタック隊と4時間おきに交信した。

12月28日　快晴　　キーパー松尾　小川
4時才1回交信 ― 4時44分起床すぐエッセン ― 5時50分
テント出 ― 6時35分一本馬尻 4.5分出 ― 7時才2回交信
7時5分 一本大雪渓 8時5分出 ― 8時35分～9時20分 ねぶか
平エッセン. 9時才3回交信 ― 10時12分～10時22分 村営小
屋100m上部 ― 10時45分白馬頂上. アタック隊と出合. ― 11
時07分～12時白馬頂上エッセン 12時50分馬尻13時出
14時全員テント地にかえる。15時エッセン ― ウイスキー1
本あける ― 21時シュラフに入る。
12月29日　晴　　荒川
強制沈殿
全員疲れているため強制沈殿する。
9時起床 ― 10時30分エッセン ― 13時エッセン ― 16時
50分エッセン ― 18時シュラフに入る 青田岳下山する.
12月30日　雨後みぞれ
沈殿
7時45分起床 ― 8時40分エッセン ― 12時50分エッセン
16時50分エッセン ― 18時シュラフに入る。
12月31日　雪
沈殿
7時15分起床 ― 9時50分エッセン ― 13時30分エッセン
16時50分エッセン
昭和38年1月1日　雪.
沈殿
8時起床 ― 10時50分エッセン ― 14時エッセン ― 18時
エッセン ― 18時50分シュラフに入る
1月2日　キーパー小川
1時30分起床 ― 7時40分エッセン ― 8時50分BC出 ― 9
時30分1本奥穂身体が異常弱くなり奥島がついてBCに下る
9時50分馬尻10時出 ― 11時30分ナダレの危険のため引返す
11時45分BC着 ― 12時10分エッセン ― 17時25分シュラフに
入る
1月3日　雪　沈殿
7時15分起床 ― 8時15分エッセン ― 14時昼食 ― 14時の
金松さん来る。17時10分夕食 ― 19時5分シュラフに入る。
1月4日　キーパー　新、奥島
2時積雪のためテントつぶれかかる. 6時45分起床 ― 8時
朝食 ― 10時BC出 ― 11時50分～12時10分長走沢 ― 12時
雪渓をツッセルしかかるがナダレ危険のため引返す。1時
BC着 14時エッセン、明日下山決定. 天候回復見込なしの
1月5日　下山
5時起床 ― 7時48分BC出 12時35分三股 12時56細野 14時30分
谷着 ― 6時松本着　　―終―

12月27日～28日白馬主稜アタック
L出島、池田！ 奥島、真野、

27日
馬尻から10分ぐらい歩いた地点より沢に下る，索道の基台により末端を知る。45°前後の急傾斜にしごかれる。このオーの雪原の上部でラッセルをやってくれたサポート隊と別れる。ここから45°を超す傾斜を登り切ると平坦なトラバースとなりすぐにオニの雪原に入る、ラッセル深さは30cmこれをつめると平坦な頂きとなり、ほとんど平行に尾根となり急傾斜の尾根さらに頂きとなる。ラッセル深さも40～50cmになり急傾斜のラッセルは非常な労力であり、~~三平~~平峯直下のアイフリッジまではラッセル登攀である。このアイフリッジは11月の偵察の時は，尾根どうしには途中で切れていたためにいけなく，二合尾根側をトラバースしたが、雪の状態が悪くトラバースは不可能である。巾1mぐらい切れいた所は完全に雪でうずまっていたため尾根どうしにいけた。両側は完全に切れていて非常にバランスを必要とする。30度ぐらいの斜面を登り切った所が平峯となる、ここから二峯基部の岩壁まで15m11月にはアイフリッジとなっているが雪がついてただの尾根となっている。ここでビーバーグ。

28日
この基部は広いテラスになっている11月のときには右側をまいたが，よりつけず最左側をつめる。ホールド、スタンスがほとんどない10mで雪原となり平峯の頂きとなる，少し下がった所に二畳大の雪洞のあとがあった。ここから右へトラバースし白馬沢側のリッジ状の所をつめる、ホールド、スタンスはあまりないが白馬沢側のセッピ状の雪が利用出来たので案外楽であった。

ここからトコトコヒ斜面を登りついた所が白馬頂上20m下の稜線であったセッピはほとんど出てなかった。

コースタイム

27日

BC 2時15分 — 馬尻 3時15分〜50分 — サポート隊と別れ 3時35分 — — III峯下 9時30分〜40時25分 —— II峯の手前 ガケブリッジ 13時10分〜14時45分 II峯岩壁基部 16時10分。

28日

ビーバーグ地点 7220 — 白馬頂上 10時10分 — サポート隊と会う 10.45 昼食(白馬山荘) 11時17分〜12時 — BC 1400

アタック携帯物

食糧

品名	個数	品名	個数
クッキー	20個	ベーコン	3袋
チーズ	8個	チョコレート	8枚
ココア	1缶	紅茶(テルモスの中に)	
スルメ	5枚		

装備

品名	個数	品名	個数
テトロンザイル(40m)	2本	固形メタ	4個
ロックハーケン	16個	食器	3個
アイスハーケン	4個	ハンドトーキ	1パ
カラビナ	10個	電池スペア	10ヶ
ジュリニデ	2本	アイスバイル	1本
アブミ(3段)	2本	針金	2m
ツエルト	1個	テルモス	1個
エヤーマット	2	新聞紙	若干
ロープ	4本		

合宿を顧みて　　西郡光昭

先ず、全員無事下山し得たことを喜びたい。
確に、今年度の冬山合宿は、初期の計画から考えても決して成功であったとは言い得ない。白馬岳の主稜と三合尾根のうち主稜だけに終ったのだからである。
三合尾根アタックのパーティさえも出し得なかった直接の原因が年末から続いた悪天にあったことは否定出来ないかも知れないが、我々自身のうちにはなかっただろうか。
リーダーの立場から少し考えてみた点を挙げる。
第一に、結果論ではあるが、偵察が甘かったことが指摘される。サポートのルートとして考えられていた杓子岳の東尾根について言えることである。白馬岳東面のサポートをベースキャンプの猿倉から直接杓子の東尾根をルートにして行うことは中間キャンプを設けないでは考られない。実際にサポートに使ったルートは雪崩の危険から殆んどルートとして計画されていなかった大雪渓であった。勿論、サポート隊はアタック隊の為のラッセルにもかなり体力は消耗していたが。
サポートのルートに偵察をまる一日を費やした為後日素で食い込んだことは残念だった。
第二は、主稜と三合尾根を同時アタック出来なかったか、という点である。
理由はメンバーが全て二年以上であったことと、トランシーバーが意外に感度良く連絡は充分取れたことからである。行動の安全性を高めることは最も必要であることは認めるが、余りにも神経質になり過ぎ、ともすれば無駄な処置が講ぜられることは合宿の成功を害う恐れがあることを思うべきだった。
第三に、天候の把握の問題である。
特に白馬岳の位置関係から好天は半日たりとも無駄にすべきでない。
以上の三点の他に反省すべきことは、多数あるし、それ等を結び付けて考えられる行動も多くあることと思うがメンバー一人一人、部員全員がそれらを結果論に帰することなくこれからの合宿に役立たせて欲しい。

アタックの日　　奥島啓志

12月27日 午前1時に起床する。テントの外はガスにたちこめていた。昨日の天気図から今日は晴を予告していたので，気に偵察隊と共に出発する。ヘッドランプの光がガスの流れを貫いて照らす雪面をラッセルしながら進んだ。
粉子尾根の分枝点で偵察隊は荷をデポし，我々の為に主稜末端までラッセルをやってくれることになった。ガスの中に末端まで全くの手さぐりである。どこかのパーティのヘッドランプもチラホラしていた。主稜第一雪原上部で偵察隊とわかれる。5時半である。
我々が第二雪原の上部にとりかかった頃，雲海の上に太陽がポッカリと顔をだし，そこで1本立ててその太陽にみとれる。ハンドトーキから第1回の通信が行われ，偵察隊をうらやましがらせる。
先程のヘッドランプは上智大であった。ラッセルを交互にやりながら進む。ラッセル又ラッセルである。
雪原をすぎるとナイフリッジ，ピックが次々に現われ，3峰下の小ピークで目前に白馬東面の壁がパット開けなかなか言難い雄姿を現わしていた。4時10分である。
3峰岩壁基部で我々はビバーグする。
ローソクの火でスルメを焼きながら，ツエルトの外を見ると暗藍色の天空にさんぜんと星がまたたき，小蓮華にはチラホラとヘッドランプの光が見えていた。するめの匂いがたまらない。ハンドトーキからの雑い声で冷えきった身体が暖まってくる。
28日．ウツラウツラしている間に4時である。今日も又快晴で空に星が輝いている。7時20分壁にとりつく。昨日壁を乗り切っていった上智大のパーティの垂洞が壁の少し上部，頂上直下にその跡を認めながら，朝日を身体全体に浴びながら足取り軽く頂上に向う。
右にトラバースして小さなリッジ上の尾根をよじ登り，そこでザイルを解き少し登った所が頂上であった。10時10分である。
時を同じくしてすぐに大雪渓をつめたサポート隊と再見することができ，快晴の太陽の下で記念撮影し，一目散でひきしまった大雪渓を駆け下る楽しさである。

快晴

食糧報告　　真野孝一

	朝	昼	夜
12月 23日	B食	クッキー	カレー
24	A食	クッキー・紅茶	B食
25	A食	シル粉	シチュー
26	A〃	パン・紅茶	B食
27	A〃	アタック食	
28	アタック食		鯨テキ・ミソ汁
29	A食	シル粉	玉子丼
30	A〃	パン・紅茶	B食
31	A〃	シル粉	ブタ汁
1月 1日	A〃	クッキー・ミルク	スープ
2	A〃	ゾウニ	焼魚・スマシ汁
3	A〃	シル粉	A食
4	A〃	パン・紅茶	A〃
5	ゴッタ煮	パン	

A食(醤油使用)
ラーメン, ソーセージ, ワカメ, ダシ粉, 白菜, 大根, 天カス, 調味料

B食(カレールー使用)
ラーメン, 高野豆腐, 豚肉, 白菜, 大根, ダシ粉, 食用油, 調味料

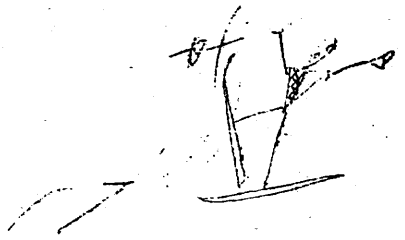
シチュー
豚肉, ポテト, 玉ねぎ, ねぎ, 醤油, 酢

鯨テキ・ミソ汁他
・鯨肉, キャベツ, マーガリン, ソース
・キャベツ, ワカメ, みそ, 他

玉子丼
卵, 豚肉, ソーセージ, マーガリン, 玉ねぎ, ねぎ, 人参, 他

ブタ汁
豚肉, キャベツ, 高野豆腐, ポテト, 玉ねぎ, みそ, 他

スープ(カレー)
豚肉, 玉ねぎ, ポテト, 玉ねぎ, カレー 他



焼魚，スマシ汁
- サンマ
- ワカメ

ゴッタ煮
- 野菜，豚肉，ソーセージ他

アタック食（計8食）			
	アタック隊（4名）	サポート隊（5名）	キーパー（2名）
クッキー	16ケ	20	8
ココア	1ケ	1	1
チョコレート	8ケ	10	4
ベーコン	3枚	2	1
スルメ	5枚	5	1
チーズ	8ケ	10(小)	4(小)

ピンチ食		
チーズ	1	25円
ヨウカン	1	10〃
ソーセージ	1	8〃
チョコレート	1	50〃
クッキー	1	40〃
アマナットウ	50g	15〃

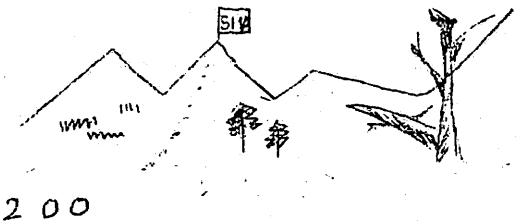
備考
- ラーメン 1人当り 1ケ（150g），米 1.7合
- コーヒー，ウィスキー（さし入れ品），あめ他

アタックの際の食費（1人1食あたり）		
アタック隊	サポート隊	キーパー
90円	73円	80円

※・サポート隊よりキーパーの方が多くかかったのは分割不可能なものがあった為

反省
- アタック食のスルメは消化が良くなかった。
- 野菜を持っていったのでビタミンの不足は感じられなかった。
- ラーメン1人1ケ（150g）は量が不足であった。クッキーも今後の冬山では定着合宿に於いても量を増すべきだと思う。
- アタック食はどんなものにすべきか迷い食糧計画書作成が遅れ，正月にも雑煮を食べることができず，わびしい正月に終ってしまった。又小麦粉で代用したしる粉がどんなに味気ないものかしみじみ身に感じました。

食糧係会計報告



収入	2[illegible],700
支出	2[illegible],700
クッキー代	7,200
米代	3,175
ラーメン代	5,106
ピンチ食(クッキー代除く)	1,196
アタック食(〃)	2,450
ピンセット・目薬	150
副食費,その他	6,421

医療

内服	外用薬
風邪薬	マーキュロ
消化剤	リバノール
サルファ剤	オキシフル
腹痛ビめ	キロナイン軟膏
止血薬	硼酸軟膏
胃薬	繃帯
ビタミン剤	消毒ガーゼ
	絆創膏
	三角布
	ピンセット
	目薬
	油紙

ストーブを持っていった為,ぬれたものを乾かすことが出来たので凍傷には全然かからなかった。
良く使用したものは胃薬,風邪薬である。
又繃帯,消毒ガーゼ,マーキュロ,絆創膏も少々使用した。
ビタミン剤はアタックの際の体調維持の為に使用した。

装備報告　　池田　松尾

合宿費が入山前日昼過に集められたために色々な装備の買出しに忙しく最後の確認をしなかったため、ソセリン、ブラックテープをそろえて置ながら部室に忘れた。農学部の部員は松本へ早く合宿費をおさめられるよう今後考えよう。

今回の合宿の装備を考えてみると、係の落度から色々な迷惑をかけたことをすまなく思っている、今後この様な事のない様反省点を挙げてみた。

(1) ローソクの不足
テント徹集の日迄どうにかもったとはいえ、第二次アタックの三合尾根が行なわれなかった為である。

(2) 電池の不足
ローソクの不足は、エッセン係、気象係が電池による照明を使用したことと沈殿の連続により夜、就寝に耽っていた部員が多かったことよりテント内の消耗が激しかった事。

(3) 槍竿、はしの不足
槍竿を使った合宿があまりなかった為の経験不足より生じた。はしはテント内で失う為であるから今後注意する。

(4) トランシーバー
農学部林学科利用学教室の分台をおかりして使用する、その便利さにはトランシーバー様々である

(5) テトロニガイル、石油ストーブ
ただその良さに感激するのみ、テトロニガイルは使い初はキニクを起すのがたまにきずで、全く水が付かなく凍りつかないのはさすがである。
石油ストーブ使用に際して、テント内は10°～15°を保ち快適なテント生活をおくった。

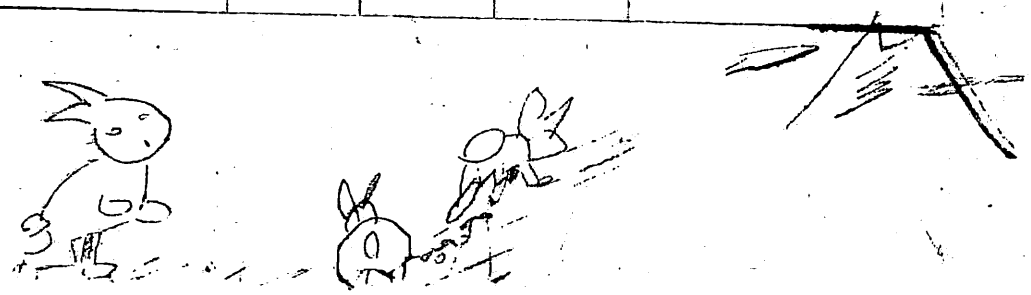
(6) テルモス、枝がタフシの破損
装備は大切に扱う事を部員相互で守ろう。

連日の降雪の為毎日雪降し，雪かきを行なったが，スコップに雪がくっつき仕事がはかどらずだいぶ苦労したがスコップにロー等油性のものを塗ったら良いであろう。
一日1mの降雪のためカマボコテントのフレームエ分所破損する。今後充分考える必要がある。
ホランニーバーテトロンザイル石油ストーブ，テルモスが初めて使用されその便利さに酔いつつ山を降りました今後もこれらの装備を大切に使い気持の良い山行を行おう。

装備表

	品名	個数	単位重量	総重量	備考
設営具	カマボコテント	1	20kg	20kg	13人用
	〃	1			6人用（元理）
	ツエルト	3	2	6	ビーバーグ用
	ラライ	1	2	2	7人用炊事具覆
	スコップ	2	1	2	
	ノコギリ	1	0.5	0.5	
	ナタ	2	1	1	
				29.5kg	
登攀具	ザイル	3	3.5	10.5	ナイロン1テトロン2（9mm）
	〃	2	4.0	8	登攀用、40m巻
	〃	1			固定用30m巻
	ハーケン（ロック）	50	0.16	3	ヨコ30，縦30
	ハーケン（アイス）	20	0.15	3	長10，短10
	ハンマー	12	1	12	各自1個
	カラビナ	30	0.25	7.5	
	アブミ	6	1	6	3段3，2段2
	ステナワ	10	0.3	3	
	赤布	若干		※	
				53kg	
炊事具	ラジュース	5	1.7	8.5	
	ナベ（大）	2	0.8	1.6	
	コッフル（大）	2	0.6	1.2	
	ヤカン	1	0.6	0.6	

	品名	個数	単位重量	総重量	備考
炊事具	食器	28	0.1	2.8	ハシを含む
	包丁	2	0.3	0.6	シャモジ、シャクシを含む
	雑布	2			
	テルモス	2	1.5	3.0	
				18.3	
雑用具	トランジスタ、ラジオ	2	0.6	1.2	主稜バーティー
	温度計	1	0.2	0.2	
	双眼鏡	1	0.8	0.8	
	目覚時計	1	0.5	0.5	
	クリノメーター	1	0.14	0.14	
	電池	2ダース	0.1	2.4	予備用
	歯取りブラシ	4	0.05	0.2	ヒモツキ
	ホウキ	1	0.2	0.2	
	標識ポール	20			
	ラジオ修理具	1組	1	1	
	ロープ	30	0.07	2.1	ビバーグ用を含む
	紐引	10m			
	エミックイン	2	0.05	0.1	赤と黒
				8.9kg	
燃料	石油	30l		24	炊事用
	〃	18l		13	暖房兼備18l缶
	〃 缶				18l 1,4l 3
	メタノール(液)	2	1.0	2	
	〃 (固形)	4	0.3	1.2	
	マッチ	1			大きいもの(11.10)
	石油ストーブ	1	4	4	
				53.7	
	ハンドトーキ	5			



冬山合宿（白馬隊）気象報告

今合宿に於いては、前半は割合に好天があり、12月28日には、第一次アタックも終りこの分では割合早く第二次アタックも済んで早目に下山出来るのではないかと思っていたが後半は悪天が続き遂に第二次アタックを出ぬままに下山することとなった。気温は高目だったようで合宿中最低気温は－9℃であった。

12月23日、大陸の高圧帯が東経海より張り出し九州西国をおおっている。Lは北海道の東北海上にあり（ウツリョウ島、北緯41度 東経120°にある。それを通る前線が東北地方を横断していて天気は午前中薄日から午後より雪となる。

12月24日、前線が三陸沖から日本を横断しており一日中雪、しかし大陸河南にかなり優勢な移動高が出来ている。気温は一日中大した変化もなく最低－4℃ 最高－2℃。

12月25日 (29 131)に1020ミリバールの移動高があり日本の東北地方以南をすっぽりとおおっているが(46 129)(42 131)にLが前線をひっぱっており天気の持続は危うい。

12月26日 1000ミリバールののLが三陸沿岸にあり移動高は後退したがそのLも東方海上に去り満州北方からの高圧帯の張り出しが認められ、午前中は雪で午後は雪の間に晴れ間も見られた。

12月27日 満州北方からの高圧帯がちょん切れて移動高となり、日本をおおった為快晴となりアタック日和、Lは九州南方のはるか海上にあるのみで影響は全く見られない。

12月28日 昨日とほとんど変りなくわずかに移動高が東へ移動し満州の(45 114)に弱いLが出来た程度で一日中快晴、好天の中に第一次アタックが完了した。

12月29日 先日来の移動高が三陸沖まで東進し大陸沿岸には、三つもLが発生すべて前線でつながれている。しかし移動高の勢力はまだ近畿以北をおおっており今日一伸日快晴、夕方より気温が異状に高くなりその夜の最低でも＋1℃という温かさで夜半よりアラレがパラつき朝まで続いた。

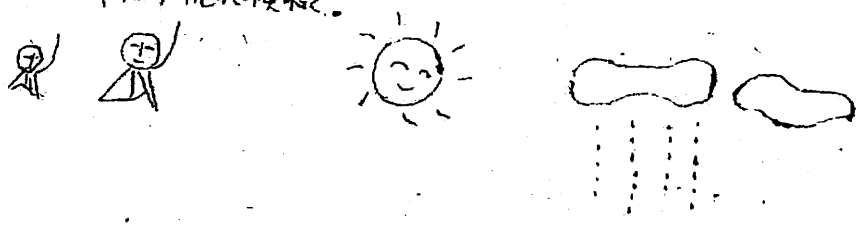
12月30日 太平洋の紀伊半島沖にも低気圧が発生しニッ玉となり天気図上は真黒になる程の全国的な悪天である。温度は高く雨まで降る仕末で日本は完全に低圧帯の中に入った。
一日中雨又はアラレである。

12月31日　発達したLが樺太東方、北海道東方、三陸沖と日本の東海上に並びいずれも南西に前線をひっぱっており日本は前線の真ただ中にある。天気は一日中雪である。
又、大陸のHはかなり発達し西高東低の冬型気圧配置になりそうな気がする。

1月1日　昨日の気圧配置と大して変らずLがそれぞれわずか東北に進んだ程度で前線は相変らず日本を囲んでいるため天気は昨日と全く同じである。昨日とやや異なる所は能登沖に弱いHがあるが全然その影響は認められず、その後の天気図によると、そのHのあった位置よりやや北にLが見られるのでHはLの誤りではないかと思われる。

1月2日　日本海と太平洋沿岸にLが発生し二つ玉となる。しかしこの二つ玉は前のより弱いようで全国的な悪天とはなっていないようである。一日中降雪。

1月3日　樺太の発達したLからのびる前線は太平洋岸にのび日本は低圧帯の中にある。一日中降雪。
又、9時の天気図では黄海にあったHが16時の天気ではやはりそのHよりも気圧の少い少しLとなっておりHが消滅してLが発生したのかそれとも誤りなのかどうか判らない。

1月4日　樺太のLが少し東に移動したがこのLは北西に進んでいる。このLからのびる前線は三陸沖から黄海のLまで続き日本の東北地方を横断している。一日中雪。
大陸にもLがあり移動高の見込みもなく天気回復の望みがなくなったので予定より早く下山と決定する。

1月5日　午前中は薄曇りないし高曇りで山もはっきり見え予感として午後は荒れそうに思ったが我々は午後には山ろくに着いていた。山はやはり荒れ模様。